

# 「常 照 我」

婦負西組 勝福寺 藤島秀恵

おはようございます。富山市八尾町の勝福寺 藤島秀恵です。私は幼稚園の園長をしています。

ある日、幼稚園の送迎バスを運転していると目の前の車道に大きな影が横切りました。びっくりして目を凝らすとある形が見えました。飛行機です。そうです。私の真上を飛行機が通過したのです。私は嬉しくなり、乗っている園児たちに

「ねえ見て！飛行機がバスの上を通ったよ！影が飛行機の形だよ」と。

ある園児が

「どこどこ？見えない……あ～ホントだ！飛行機、飛行機の形の影！飛行機も見える」

と興奮して応えてくれました。私は、日常の会話ですが、たまたま気付いた飛行機の影に、そのことを園児と会話をし、飛行機の大きさを一緒に感じられ、共感できたことはとても嬉しかったです。

では、普段、自分の影を見て何かを感じるでしょうか？私は「あっ、私の影だ」という風には思わないし、何も感じていません。でも、昼間に外に出れば、必ず影はあるし、夜でも照明があれば影があるはず。しかし、何も感じていないのです。ところが、今回のことで、ある時、自分にも影がある事を気付かされました。面白いなあと感じました。何が面白いかというと、いつもは流れていく事柄ですが、あるきっかけで起点となる事です。

少し話は横道に逸れますが、25、6の時にある先生と食事をしていて箸の持ち方の話になりました。私が「よく箸の持ち方が悪い人がいるけど、直せば良いのに」と言うとその方が、「そうだね、自分も含めて気を付けなければならないね」と言われました。そして話の流れで正しい持ち方は、どうするのだという話になり、その先生の持ち方と自分の持ち方を見比べました。すると、自分の持ち方と違うことに気付きました。その先生は私の間違いを知っていたかどうかはわかりませんが、人をあまり非難されない方でした。そしていつも「自分も含めて」と、他人事にはしない姿勢がある方でした。私はとても恥ずかしくなり、自分の間違いを告白しました。そして持ち方を改めて教えてもらい直すことができました。もう二十年近く経ちますが、食事中に今でもその事を思い出し、持ち方を確認しています。この出来事がある意味自分の箸の持ち方を見直す起点になっています。

なぜ、こんな話をしたかという、私自身のテーマである「生きている私にどう仏法、南無阿弥陀仏のみ教えが関わっているのか」ということを間接的に知らせてくれる出来事（起点）だからです。飛躍しているかと思いますが、そう感じるのです。

では、なぜそう感じるかというと、箸の持ち方を教えてくださった先生が別の機会に「親鸞さまは、南無阿弥陀仏のみ教えから自らを煩惱具足の凡夫と聞いていかれた方です。私もそのお心を頂き生きてゆきたいなあと思っていますが、そうはいきません。他の人を指さすばかりでその指が自分に向きません。自分の姿が見えないのです。それどころか、凡夫だからとうそぶいてしまいます。しかし、阿弥陀さまはすごいですね。その私の自分勝手を知ってくださり、捨て置けんと願ってくださるのです。私は失敗もします、自分を見失うこともあります。完璧な人間ではありません。いつもではありませんが、私でもそんな自分を省みる時があります。その時にフッと思うのです。私が気付いたのではなく、常に願ってくださる阿弥陀さまが、私の有り様を知らしてくださったのだなとね」

と話してくださいました。その姿勢が仏法を通して自身を省みることをなさっているように見えるのです。「私を含めて」の言葉の根っこがそこにあると思うのです。阿弥陀さまの願いや救いのはたらきを光で表します。その先生は正に光に照らされている生き方だと思います。

高僧和讃 95 (源信讃) に

煩惱にまなこさへられて 撰取の光明みざれども

大悲ものうきことなくて つねにわが身をてらすなり (註釈版 595 頁)

とあります。「正信偈」(原典版 259 頁)の煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我と同義で、この部分は親鸞さまが源信和尚の『往生要集』より引かれています。)その意味は「私は煩惱によって、眼をふさがれているため、すでに届いている阿弥陀さまの決して捨て置けないというすくい光明が見られない。しかし、阿弥陀さまは気づかない私を問題とはせず、あきることなく、いつでも、どこでも、どんなときでも私を照らし続けてくださっています」です。

光明があれば影ができます。その影を煩惱と頂いてみると私自身は常に照らされ影が出来ているはずですが、しかし、煩惱により光が見えないように、影も見られないのです。阿弥陀さまの光明は、煩惱具足の凡夫である私に多くを求めず、ただ南無阿弥陀仏と我が(阿弥陀仏)名を称えよと、そうすれば、お浄土への道を歩む仲間となることが定まると説かれています。阿弥陀さまと私の断絶が、南無阿弥陀仏のお念仏一点で繋がったのです。

さて、話はずいぶんとおちこちに行きましたが、最初に飛行機の話を出しましたが、本当にどうってことのない出来事です。しかし、阿弥陀さまの光明が常に照らしてくださるから、仏縁に出遇えることがあると頂いています。常にはたらいっているという事は、私のスイッチが入る瞬間を逃さずにいてくださるということで、飛行機の影→私の影→光→光明→常照→私の煩惱の存在と連想ゲームのように繋がると、不完全でありながら、願われた存在である私に出遇えます。また、先生に対する憧れや尊敬がきっかけとなり、その姿の背景に仏法との出遇いがあることを知ると、生きているものにはたらくのが南無阿弥陀仏と知らされます。そして、お念仏を縁とした仲間(同朋)ができることは、園児と些細な出来事で共感できたことのように、とても嬉しいことです。

阿弥陀さまからはたらきが起点となり、自分勝手、自己中心的な反省しかできなかった私に、生きていく上での宗教的問いをいただきました。煩惱具足のわが身は変わらなくとも、お念仏に下支えされながらの人生と知らされ、限りあるいのちが終われば、お浄土への新たな起点(さとり)を頂くことに喜びを感じます。

煩惱具足と知らされることは、煩惱で振り回され、自分自身を見失って生きることをしないでくれと阿弥陀さまの願いを聞かせて頂くことです。

生きている生活の中にこそ、仏縁がある気がします。